

名所圖會卷之九

上衛之部目錄

丙一〇九〇五號

湯島聖堂

紙園神社

妻戀心神社

根出院

中島辨財天

湯島天満宮

東叡山寛永寺

谷中瑞林寺

螢澤

七面大明神社

清光寺

神田明神社

靈雲寺

湯島神社

池の端綿袋圓店

不忍池

同祭禮の圖

感應寺

日暮里

養福寺

道灌山

青雲寺

道灌山

坂坊明神社

休明宮

長相寺

王門寺

山王権現社

宝光堂

文珠堂

学寮

同山堂

雲水塔

文珠堂

学寮

同山堂

雲水塔

文珠堂

学寮

同山堂

雲水塔

文珠堂

学寮

同山堂

雲水塔

文珠堂

学寮

同山堂

雲水塔

文珠堂

学寮

同山堂

雲水塔

文珠堂

道灌山

坂坊明神社

休明宮

長相寺

王門寺

山王権現社

宝光堂

文珠堂

学寮

同山堂

雲水塔

文珠堂

学寮

同山堂

雲水塔

文珠堂

学寮

同山堂

雲水塔

文珠堂

学寮

同山堂

雲水塔

文珠堂

学寮

同山堂

雲水塔

文珠堂

学寮

同山堂

雲水塔

文珠堂

根津権現社下巻之十五

根津権現社

同赤不動堂

六月朔日富士信の宮

圓勝寺

白鬚明神社

飛鳥山

王子権現社

七月祭祀の宮

金輪寺

金剛寺

全別寺

根津権現舊地

駒込吉祥寺

田畑子樂寺

深井西福寺

昌林寺

平塚城跡

音谷川

王子権現社

十八講の宮

滋石不動堂

二法法住寺

駒込大観音

神明宮

平塚明神社

同合戦の宮

同新酒亭の宮

装束島衣裳櫃

石井井川

泉流遊

赤羽山八幡宮

妙林寺

丸山淨心寺

富士法洞宮

八幡宮

西谷谷堂寺

同東由の宮

犬追物上覧の地

程冊翁舊跡

花法祭の宮

除夜祝火の宮

松橋安財天

稻付静徳寺

川口渡

川口若光寺

振東塚

紀明神社

鍋匠の園

清光寺

地蔵堂

豊島の驛

豊島康家清光之墓

若文八幡宮

駒込寺

豊島

聖堂



新葉集 釋奠

かゝるを

むろりの

ふをた

うり来て

あふけり

また

煉の夜に

月

妙光寺  
内大臣





神田明神社

暮景集  
深夜の帰風と  
夕と成神國  
社  
急  
ふふ  
とん

鳴はれて  
老  
あふ  
老



はまの

こ

あふ

夜半

あり

う

老田  
持資



され其項日輪寺ハ押原ヤクビトタマフ元和二年又今の湯島にうつせらる其儘舊號を用ひて神

田大明神と稱神主を代々其の氏あり祭禮隔年九月十五日江戸神社の祭礼ハ永田馬場山王孤

公公の沙汰一時の莊觀練物車樂等善盡し美以盡し町中を神事能隔年九月十五日祭禮の後

青青は武品を指すと云ふ合戦の御中其年の神事能廿五年九月十六日に眞行あり

祇園三社本社西小並不當社比王の御あり毎歲六月祇園會あり

祭神五男三女八王子と稱六月五日大傳馬町旅所神幸同八日に歸輿あり

社家の説大政所と稱して南傳馬町の旅所神幸あり則風土記ハ所謂江戸神社之

風土記曰豊島郡江戸神社大寶二年壬寅所祭素盞鳴

尊也神貢百束三字田云云

當社の境内常み賑しく詣人も多し茶店各崖に臨むと遠眼鏡を

と出し風系紙紙のからむと殊更近來の瑞籬み椽樹をあまた植たれ

彌生の頃最美觀たり

萬昌山圓満寺 湯島六丁目あり真言宗みして岡山も本食義高上人

かり奉尊十一面觀世音如意法尼の淨也法尼ハ淨和帝の妃みして左右

み六觀音を安置以當寺世に本食寺と稱せ

寺傳曰岡山本食義高上人を覺海と號以足利十三代將軍義輝公の孫

義辰の息あり義輝の子孫あり日向園産ふ幼より瑞相ありふ仍て出家し

肥後園佐土原の福禪寺入く覺深師み随從し本食となれり寛文八年衆

生化益のたぬに東奥よ下りあま孫く靈地は津しさか堂宇と建立を仁和

寺宮道永法親王此事を聞し召れ感稱ありて傳燈大阿闍梨權大僧都法印

み任せらる其後西園に赴くの頃も大に奇持を顯は延寶三年十月都小上り

堀河姉小跡多門寺に止宿有頃微疾を患へ同四年正月廿一日自臨終の

期を知り時み諸の菩薩來現あつて示して曰唯今ハ汝が臨終の期みあ

らば早生せんと思は猶大願成念普く衆生を化益としと云仍く同五年

云仍く同五年



神田明神

祭禮

隔年九月十五日

執行小氏子の

町くまを練物車樂

出に申おも

大江山凱陣

牛若丸奥刃下

朝鮮人末朝の

おと孫よ遠近に聞て

其名高く

最

美觀



大江山凱陣

東江源辨書 函





花  
大  
名  
虎  
を  
手  
入  
糸  
可  
由  
風  
雪

其四  
其三





江城湯島の地に至り彼佛の教を随ひ諸人れ求に應じて無量を願ふ  
 成就一太の靈驗をありて同七年御室宮人參ふに行法の嚴重なるを  
 御感あつて高野山光臺院の住持職に任ぜられ又天和二年七月十三日  
 叅内を頭中将隆真卿の傳奏ありて光臺院住持職勅に應じ國家安  
 全寶祚延長を祈奉るべき旨倫旨賜ふ祖先の徳義に仍て名案の又え  
 祿四年志願によろしく光臺院を辭して江戸に赴き奉郷三組町に任せらる  
 其頃  
 大樹 常憲公とて淨光院殿須山女を以て御祈禱を仰附り奉室永  
 六年上京に此時昇殿を許され同七年江戸湯島の地に梵刹を建てる  
 萬昌山圓滿寺と號し  
 大樹 文昭公の御志願より仍く奉多彈正少弼忠晴奉行たり則上人を以  
 て當寺の岡山とて享保三年六月七日化縁の祈盡く終り春秋九十五歳  
 ありて遷化を以上岡山傳の

圓滿寺

俗に本食寺  
と云ふ



寶林山靈雲寺 大悲心院と號し圓滿寺の小れ方にあり關東真言

律の惣奉寺ありて覺彦比丘の因基なる

灌頂堂 兩界六日如來と安置し

大元堂 灌頂堂のうしろ方丈の中にあり奉尊大元明王の像ハ元祿大樹の所筆ニ

朝の後兼和二年奏聞を経て小栗柄の常曉阿闍梨唐土

從等の書見えり又延喜式云蕃寮式曰凡大元帥法毎年

鐘樓 覺彦和尚自銘と作る

寶林山靈雲寺 鑄鐘銘並序

武都北郊有一勝地四埜廓落四方之衆易來而投

擁一丘崛起一天之星可坐而算管祠良聳神鬼常作

互和靚城聖峙靈祇遙為鎮護東嶽天澤後聯鐘梵

從四位下柳羽前岫旭曠相映實武野之甲區者也

篤佛之忠孝是勢在公之暇嚮志眞乘常歎世季俗滴

府堅請伽藍之地以囑貧道遂使今茲仲秋之二十幕

大將軍下旨賜許斯攸予乃夷榛莽卒初營構遐通

競趨緇白佐助自閏八初二始野備後刺史源成貞

者時之績倏示告成從四位下捨家貲命于鳧氏鏗成

鉅鐘之興起也者本是樓今月初四樓鐘偕就以惟

斯將軍之賜而二公醇信之所致也予欲使後生有

大感于茲欽遵佛制力荷教法上以禱 台運無疆下

以增士民壽福也乃為銘 曰帥資地 實比布金

城北福庭 山號寶林 彌歷七旬 棟宇成森

作夫四集 役工日臨 命工作器 侈弁合程

牧野備公 爲時股肱 賢聖畢萃 龍鬼熱醒

架樓突元 乍響鏗鉤 迷夫天真 何有垠埒

聲雖本有 乍起乍滅 法音遍益 何有垠埒

圓性融相 誰縛誰泄 法音遍益 何有垠埒

元祿四辛未年孟冬 地藏堂 奉尊地藏菩薩 弘法大師あり

地藏堂 奉尊地藏菩薩 弘法大師あり

開山諱の淨嚴字の覺彦妙極と號し河劬錦部郡小西見村の産

氏あり 寛永十六年己卯十一月廿三日に生ふ四蒙りて普門品尊勝大  
陀羅尼誦詠奇標穎悟夙因の發する取之凡耳目の歴る取終遺忘はる  
事ふく衆人是を神童と稱せ慶安元年戊子高野山檢校法印雲雪法禮  
して難陀を昔に年十歳朝參暮詣倦事なく紀昶亞相公頼宣卿一度  
見たすひく深く是は器ありと真みあれ方外千里の駒かりとのさまふ  
遂み真言の諸流れ秘奥を究む又餘暇あふれと孔老をび諸子百家  
歴史等法ぶるとはあふく常は法戦の場み臨に向の取敵かへ貞享  
甲子冬錫を剛九に飛に其曉瑞雲ありて東を指其色赤黄みして長さ  
と數十丈あれ和尚の法化將み東方に振えとまの兆あり一度東都り  
ありてより法教に城の下に震ふ仍多和尚の道香公慕ひ牙子を禮は  
設厚くあれは遇はる輩をこれに元禄四年  
大將軍 常憲公 召見し多ひ普門品を講せむ雄辨泉の流るごとく聴者  
欣然とて善と稱は遂み城ふして地を賜ひ梵刹は經始はあまひく

佛殿僧房香厨門廓覺と連ね巍然として一精藍をなれ號く靈雲寺  
とて是往年の瑞は依りたり遂に密檀を建秘法を行講慈と鋪文密  
教を唱ふにをんと諸名匠衣と摺てあり至同五年壬申六月大元帥  
の大法を修し圓家昇平を祈ふあれより以後毎歲三神通月七日後  
法を終とて永規とて翌年多麻郡の戸若干を割て香積に充開東真  
言律の僧統となしたまふ又乙亥は夏  
大將軍 常憲公 齋戒し多ひ大元帥金剛の像を畫き本尊に  
下し賜ふ安置し奉ふ 同十年丁丑僧俗の請は依り曼陀羅を因く檀  
場に入者九万人み幾し 隔年灌頂を行ふ 既元禄十五年壬午六月廿七日  
諸徒召遺誠懇懃なり我今法界三昧入といひて恬然とく順化は  
世壽六十四僧臘二十七時は顔四十許色相怡悦とて平生は勝る師常ふ  
弘通を以て己が任とて受取の財帛をとし貯えば又まるとに費さば佛像  
を造り聖教を索め堂塔を構貧窮を濟ふ若後經論を講説を終て二百



大悲心院  
 花城  
 見まろ  
 灌頂池  
 園  
 さくら  
 其角



靈雲寺  
 方丈

天元堂  
 灌頂堂  
 鐘樓  
 惣門

妻戀明神社



三十六會殆三十席秘軌と授ふこと五回著述を其所の書三百卷余度そ  
 其處の僧尼四百三十六人具足戒を受ふ者十有三人阿耨梨を得る者二百六  
 十八人受明灌頂は受ふ者千六百三十一人菩薩戒を受ふ者一萬五  
 千人其余の法化の奉て數ふべし往哲のいさゝか發せがれを發し先賢  
 を明うならしめばあはれなる法化洋々として天下に彌布し王公と  
 下愚夫蠢婦に至る迄敬仰せむといふことあり今古のあはれなる所  
 實に總持復古の師なり 以上當寺開山傳の要を摘ぐるに記す

妻戀大明神社 妻戀坂の上にあり万治年中回祿ありて後今の妻戀臺  
 に移らせり

祭神 第一殿 倉稻魂神 第二殿 日本武尊 第三殿 弟橘媛命

社傳曰當社を往昔日本武尊東征の頃此行宮の地ありと云々  
 按に日本紀より日本武尊東夷征伐の時妃弟橘媛海水に入て  
 登る東南の方と望たまひ五日孀者耶と宣ふより思はせり因り考ふに此地も東  
 征の時此行宮の地なりと云々彼尊と慎奉り妻戀臺慕ひたまふの意を取て直り



妻戀明神と号しカ多ク今稻荷明神をりつと社の號  
稱せりと云ふも後世合祭せりつと云ふ

往昔々社地も妻戀臺の下にありて境内をゆるる廣うりに救度  
を兵火に罹り大に荒廢よき比繞り社の形をりを殘せり時よ天正  
年中

神君當社よ祈願の奉ありて新二丁四方の社地を賜ふ又寛永五年

台命よりつ

神君の御像を別社に鎮座をさす先後今稻荷の社に鎮座を奉るとり

湯島天満宮 妻戀明神の小れ方あり右田道灌江戸の静勝軒あり頃

文明十年 夢中に菅仲よ謁見を翌朝外に菅丞相親筆の函像を携來る

者あり乃夢中を其所の尊容を彷彿する以て直に城外の小に祠堂と

宮彼神影と安置し且梅樹數百株と栽美田等を附せ即當社是あり

以上諸社一覽江戸名所記等の書に生れりども其の誤りも勘町平河天神に  
菅丞相親筆の函像と稱するものありて之を當社に此點あること其論  
ありと云ふ

北国記の

武藏野の遠望と懸たふに寒村の道より野梅盛み薫ばされり  
小社の神と聞えたり

三つに東風吹むを遠くまの袖を拂ふ 亮惠

湯島神社 五戸隠明神と稱す奉社の後れ方あり則此社の神あり

風土記曰豊島郡湯島神社雄略天皇御宇二年癸巳

天澤山麟祥院 同所北の方あり臨濟宗江戸四箇寺の一なり

恩山天澤寺と稱せり春日局の奉尊の釋迦如來園山ハ渭川劉和尚

法号と取て麟祥院とあり春日局あり 三代大將軍の所乳母人齋藤利三の  
京師花園妙心寺 奉願と春日局あり 三代大將軍の所乳母人齋藤利三の  
女やて稲葉正成の室あり寛永

寺傳曰寛永元年甲子 二代大將軍の 命よりて當寺を春日局

を菩提所とす且其殿閣をまに移し 天和二年回祿を其以前の禪人十八

等皆雲谷 同五年 三代大將軍 不豫ありせりて局自ら

東照大権現の 神前よ詣りて禱て曰妾が身不淨ありと云ふも苟も乳



湯島天満宮  
 月毎の  
 廿五日の  
 植木市  
 あつて  
 孫更  
 あつて  
 一時の  
 壮観  
 あり

谷下

表門の  
 通り  
 科理  
 茶屋  
 あり



鳥丸光廣卿

そへは

光る

朝日れ

よそい

かまろ山

わくくの

まみの

まうん

以底

麟祥院





根生院

本堂

方丈

味を奉りて乳母の称を汚し歳月祠奉れり且將軍ハ萬民之父母也  
若今大故あふれらるる國家の安危にわづらひ願くハ妾が身を以  
是に替り奉らむ若快復あらしむ忽に身み病苦を受誓て醫藥  
を用ひて死せむと云 其衷誠正ニ感應ありて日を経て常にあつせ  
たまふ仍く身を終ふまで針灸藥餌を用ひて我同六年洛より春内  
以西三条大納言實條卿兄弟み準せられ春日局の号を賜ふ遂に  
天顔 後水尾帝 拜し 天盃を頂戴せ此時良尚親王あつひは實條卿  
光廣卿より和哥を贈らる

春日山其名代よもあつて弟代より松の風も 良尚親王  
かきかぬの名もあつれ名より紫の托もあつれん 實條卿

心たぐれ君のゆりれ本日辰巳の朝日を先かへて 光廣卿  
其外奉白集に山長嘯子より賜らる所の東都下向該別の和哥詞書等  
あれどもまづに畧し

同九年 台命は依り再び洛より上り 女帝 明正帝と拜し奉る

後勤勞歸休のため代官町一宅地を賜ひ從二位み叙せられ

影堂 奉堂の元より二位局の親影を置此係へ 台命にして狩野探幽局

大將軍 命せられ所ありて唐草の純子に正壽の字を織入り毎年九月十四日忌

金剛寶山根生密院 延壽寺と號を同東の方にあり真言新義江戸

四箇寺の一にして寛永初始 御祈願所に 命せられ奉尊藥師如

來ハ佛工春日作脇檀に十二神持の像を置崇善法印 猶子あり 松之川

岡山と云

不忍池 又篠輪津 東叡山の西を麓あり江州琵琶湖に比せ 不忍とハ忍の岡に

廣方十丁許池水深くして旱魃おも潤るる殊蓮多く花の頃ハ紅白咲亂

天女の宮居はさくら蓮の上は湧出するが如く其芬芳遠近の人乃袂を籠る

風土記曰豊島郡篠輪津池貢鯉鮒鰻魚鴻雁鶴鷺

鴨等周行十里許程早日水不涸霖雨不爲害祈早

中島辨財天 不忍池の中島あり當社々江尻竹生島のうらみあり

錦袋圓

池の邊仲町幼學堂  
其の祖勸學堂  
藏經建立  
の志願  
よりて正保  
三年坊の  
勝尾寺  
の長  
谷寺  
陽清水  
寺等の  
大悲の尊  
前々  
指して  
の

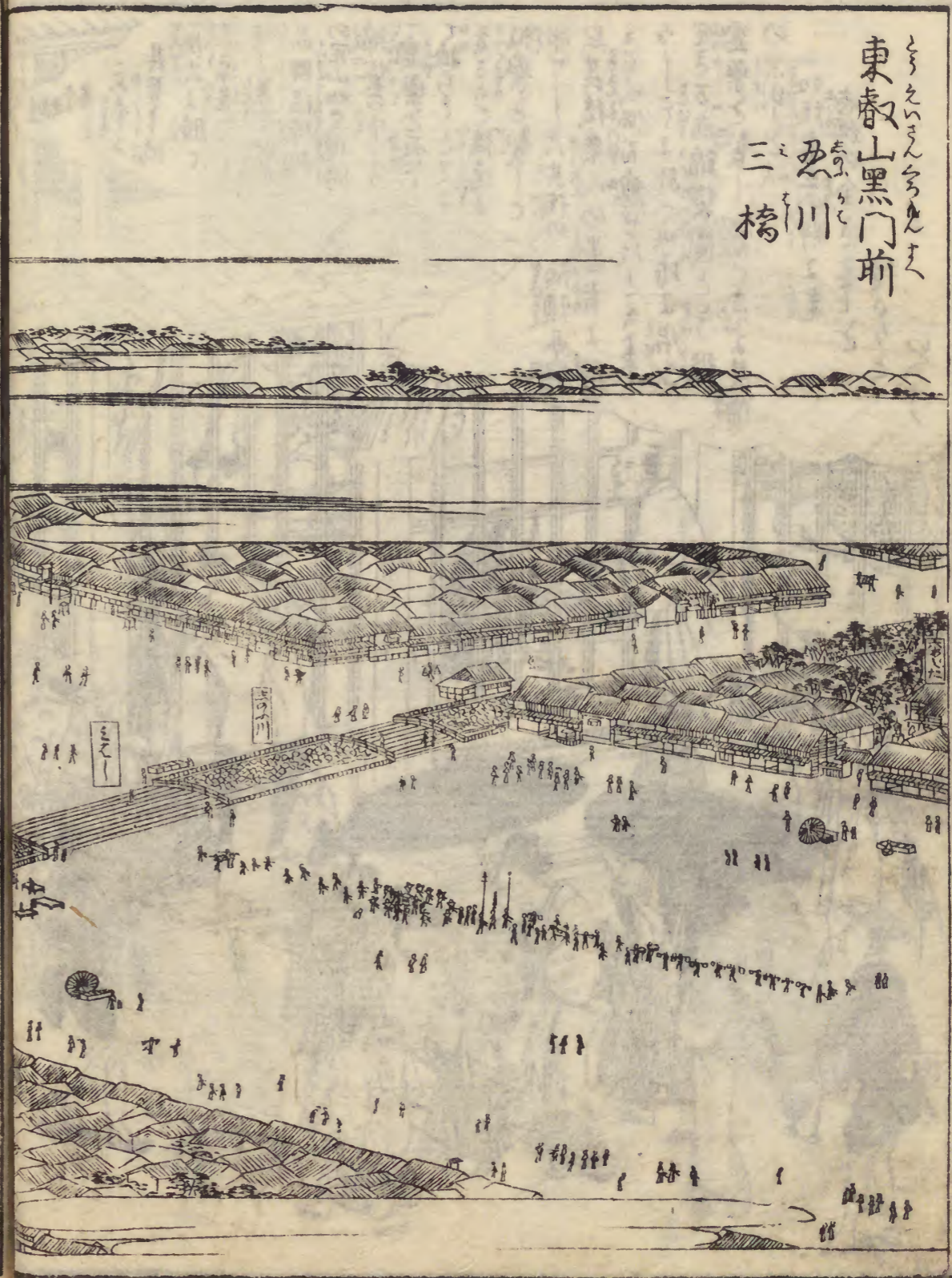
木元錦袋圓  
不助



萬病錦袋圓

其聖手彼  
一指大は腫て  
痛甚か  
時夏中肥前  
勿興福祥利  
の元山如定禪師  
錦袋の中より  
一靈藥と取  
て授けんとす  
後速よ  
彼藥を製して  
服せし其指の病頓み愈  
也其後衆人の患者も用  
る百人必百愈せんと云ま  
る一々其於此地又病と  
疾さる病錦袋圓と号彼  
靈藥と製し響て竟其價  
の余れと云  
一切経建立の料又免  
志願の全き事と  
得たりと  
りり







忍の池  
中島辨財天社





本尊辨財天とよひ脇士多聞大黒の二天とも慈覺大師の化あり

社傳曰往古東叡山草創の時慈覺大師此池を江別の琵琶湖みかたら新

又中島を筑立て辨天の祠を建立せられと云云江名取記云水塔修守

聖天宮本社の北の方小島小勸請す此島其始天の祠あり一書此あり其頭もこの聖天の宮

紫銅華表 額 天龍山 細井廣澤筆

昔の離島小して松めて往末ビ一を寛文の未陸より道筑築て糸清の人便

わら一己己日の前夜を糸清群集す

東叡山寛永寺 圓頓院と號す人皇百九代 後水尾帝の御宇寛永年中

比叡山延曆寺に比せられ江城の鬼門を護るの靈區として慈覺大師草創有

爾より己降代々一品法親王座主として今天下才一の梵刹たり

中堂 本尊藥師如來 傳教大師の化也して加加夫造村石律より修せられたといへり

天井の中央小畫ける龍をあらはしにうろの壁の上に寫せる六の六羅漢等の像にも此神永叔の筆あり

脇士 日月二大神將 慈覺大師の化として羽別

脇壇 不動明王 智燈大師の化 多摩天 定期の作

# 瑞瑞殿

額

琉璃殿

靈元法皇震筆

竹堂 席川のうらた依にあり昔慈覺大師入唐の時五基山の竹を根うに推して歸朝の

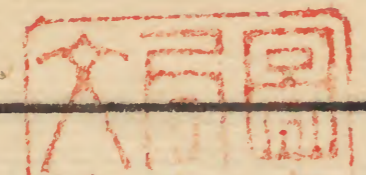
額

# 寛光堂

後水尾帝震筆

雲水塔 中堂の東の旁にあり多宝塔と習い信は初慈覺 二十番神社 雲水塔のうらたに有

定山慈眼大師 建立 轉輪藏 中堂の前の方あり一切經を収む前に傳大士をよひ普賢





東廠山上陽春衣  
 東廠山下背花歸  
 回看終日酣歌處  
 風起晚來爲雪飛



先生裁るあゝとし  
 うまうまふ  
 我輩文集ふり  
 と書しむむじ羅山

東廠山寛永寺  
 櫛ヶ峯  
 山王社



木のりこ

汁毛

鯨

さくら

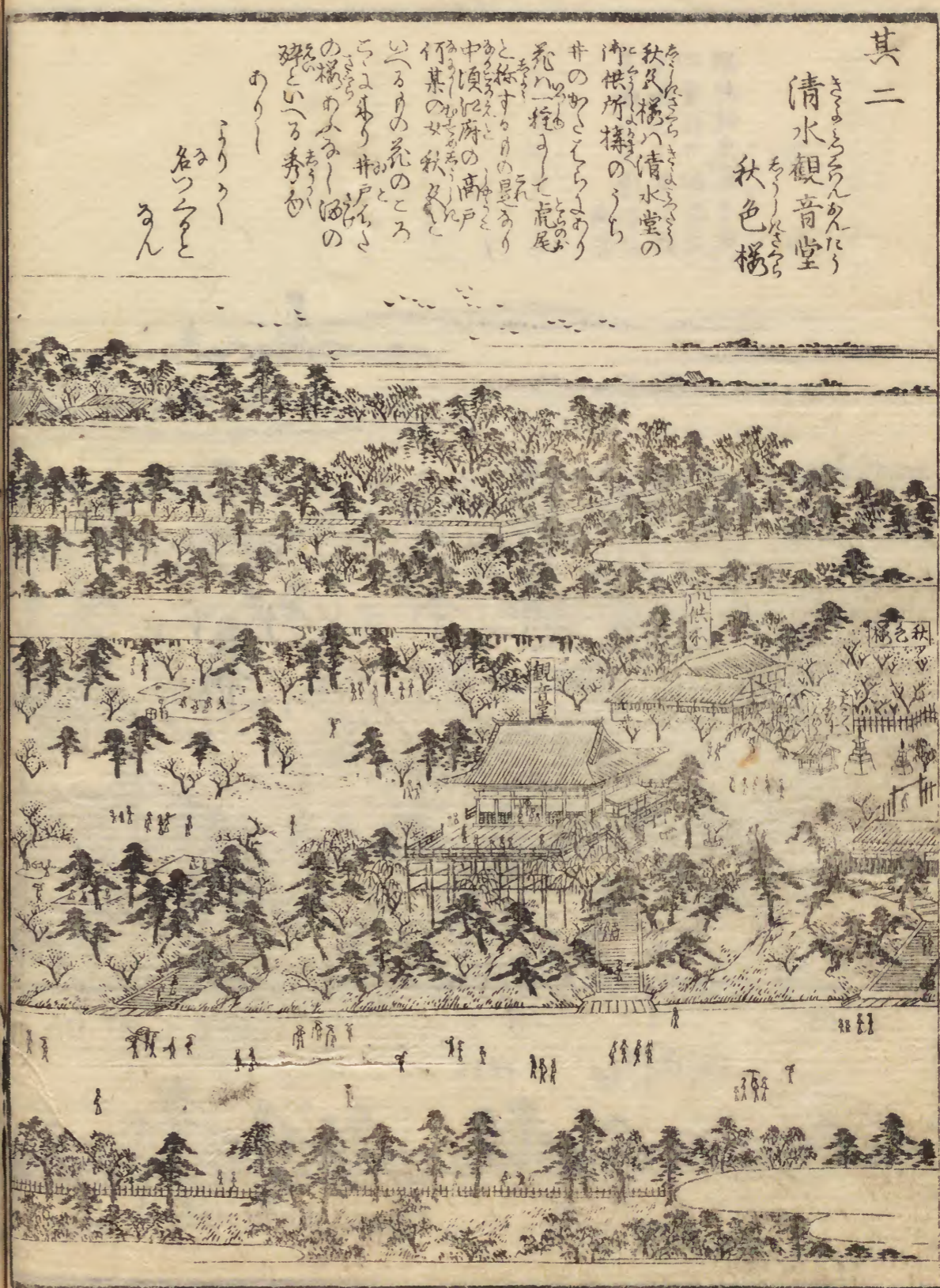
りな

芭蕉

本堂

山道

下馬



其二

清水観音堂

秋色

秋は清水の清水堂の  
 内供所構のうら  
 井のわさくらあり  
 花の一種ありと虎尾  
 と梅すりの懸あり  
 中須府の高戸  
 行某の秋及び  
 いるりの花のころ  
 らよあり井戸の  
 の橋のみるし海の  
 碑といふ秀か  
 のり

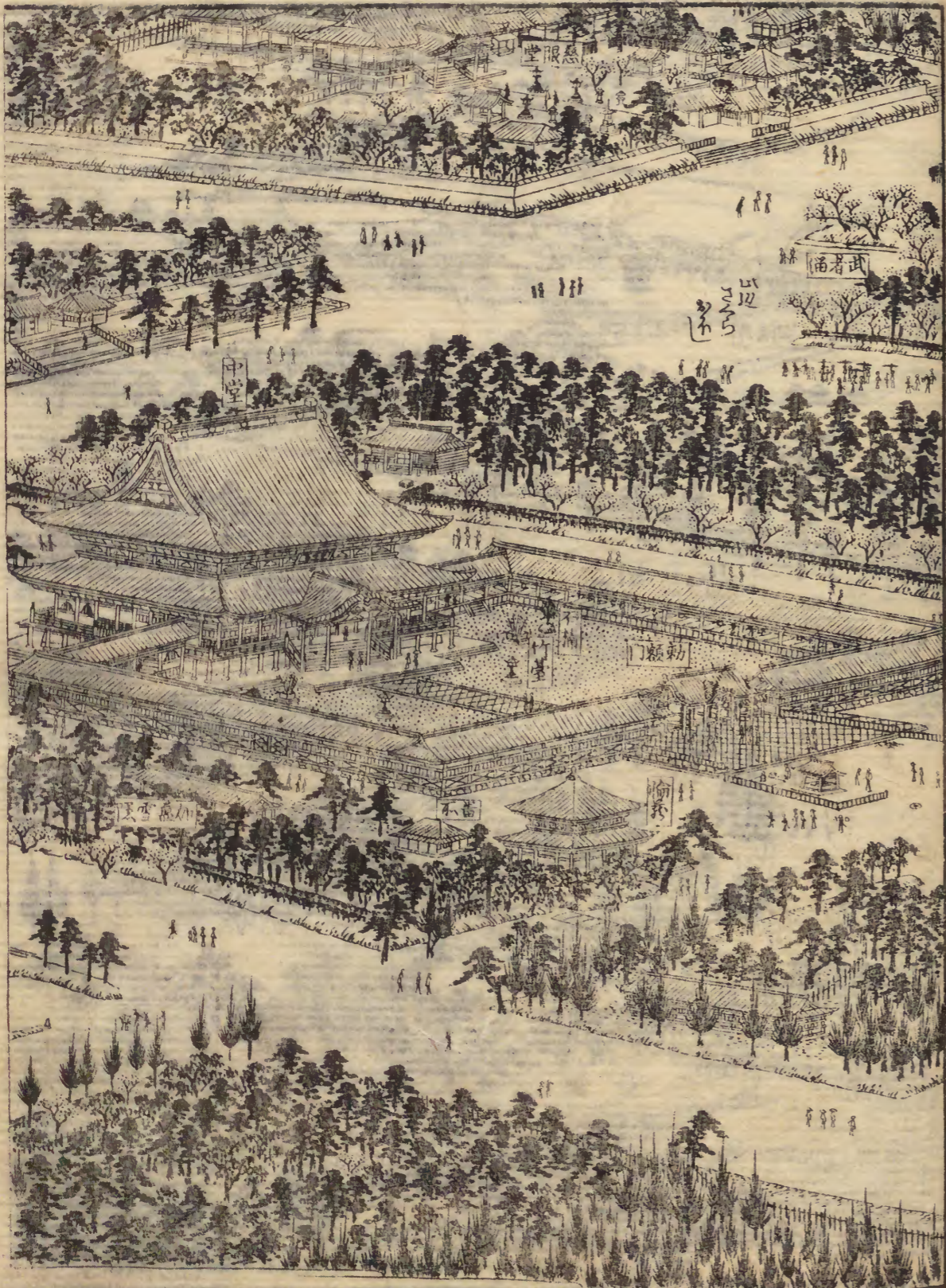
名つくと  
 むん

秋色



其三





五其



忍岡縮荷社



法華堂

中堂の前のありあり普賢菩薩を安置す毎朝日月常行堂あり

鐘樓

鐘の音は遠くまで響き渡るなり

武州東叡山鐘銘并序  
誠是靈區也叡山大僧正天海

東照大君之原廟由是伊賀羽林次將高虎雇梓匠

祖廟大成土木之功屹焉巍然如時貴戚之群

大相公之寶新鑄鬼鐘高架一樓伏願此丹忱

一感天曙色喚鶴應霜永延千之遐齡庶幾乎





東叡山  
勸学寮圖



不預子前人別示本士藏内中盡以親大講聖萬不自武  
 壞備其有聽設不院之徒僧塔之後奉築詣己近乘院之行皆古州  
 衆金庖丈知講云衆塚左聖藏祖唯燦行翁此利是善中大勸  
 可一福院三堂東九其右像以之憂開善僧都妙下乘沙勸  
 安千之之聖中西百孝立乃貯大佛山薩都行行使願播講  
 身二屬四設奉有八忱其明三法法隱行者者行天願輪名院  
 学百悉周教釋文十如戒僧藏乃不老人持其未下人易成生德  
 道兩備有雖迦庫人此師知聖乞大興及戒人欵以成於世下者  
 無為焉寮少如藏竝藏祝定教武興於吾律不自其諭也若今無  
 風遮僧舍異來儒都前髮公其陵於世而諸失威儀白為沙東都  
 雨年都凡而像老料之師得外東叡而世知識僧食處參門勸  
 之脩年二利日二輩西及自畧叡之山以山勸僧俗宿露方便學  
 遍葺老百人講教感偏二雙以山以山勸僧俗宿露方便學  
 無之慮間善三及其有親徑銅勸葉古以銅防火院不露方便學  
 饑需後以世教本功僧養益古以銅防火院不露方便學  
 凍是堂栖則一書書浩石自銅防火院不露方便學  
 之則宇諸矣俾籍大像得像火院不露方便學  
 憂院朽方矣俾籍大像得像火院不露方便學  
 身既壞学其國又以乃居也患正能不嘗發學至度莫

三聖人の古銅像を  
 疊くこれを築き  
 寺法石大和尚  
 あり同石壁の外  
 二親養父母  
 又自居居士  
 和尙これを撰  
 聖人の古銅像を  
 疊くこれを築き  
 寺法石大和尚  
 あり同石壁の外  
 二親養父母  
 又自居居士  
 和尙これを撰

安學成則足俗圓方袍也於今之僧也則  
我學成則足俗圓方袍也於今之僧也則  
蓋已飄然自天不聞佛事而臣王侯莫得  
矣是則成夫四足若僧其重可謂德嘗於  
公則大與行所積淨莫不盡其大願國散  
載間以人苦十所藏矣年來黃又虛關帥  
院今藍年春因予奉藏矣旨住黃所益願  
然伽至薄每坐子院小棲禾嘗嫌事年施  
飯以竹策蒲鞋以院小棲禾嘗嫌事年施  
非佛道能僧都終不致與病交侵卑老勤  
其講之迎葉波乎都謝僧恩法契已久而  
之大立院今春嚴世所罕到院相訪觀其  
元行劫後季賢云所罕到院相訪觀其  
元行劫後季賢云所罕到院相訪觀其

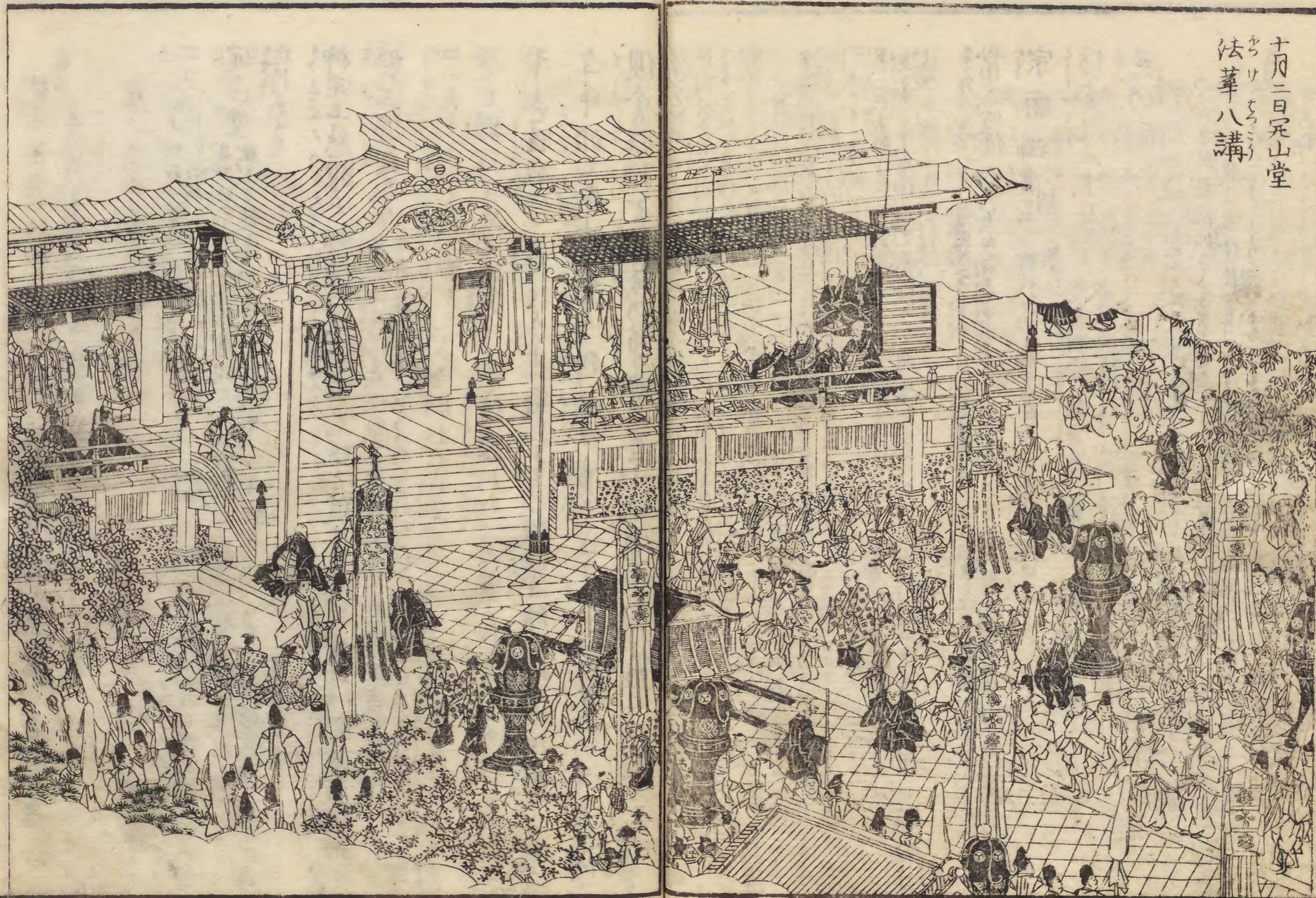
勸學坊了翁僧都 其俗性冷木氏羽尾勝郡八幡村の産あり寛永七年庚子三月十日  
總泉禪寺に入りての僕とありつゝのふれあひありて雜深一僧とありて  
それ一切概押ハル來の疋齋よりて人の眼目より其心と禪堂と建立  
りて保元元年甲申歲僧守八幡宮小僧一至今心志願の成就と行りたるより

禪園と徑歴一ありて高徳の師とありててやこに御湯入美意に年肥初の如福  
禪刹の吳山と定禪師の示現よりて佛袋山の靈方と製し布店とひらきてこれと  
六年と徑て其價の余洋金三三兩と得たりとて當文十年庚戌歲一也ハすの  
中島よりて地を賜ひわたりたふ一島と築き一寺と建ててててててててて  
うそ其の較恩の御湯袋山と四十二人にして天和二年歲五又新藏山の中よりて  
余洞の地を賜ひ勸學寮と建立す院宇三疊四方二百戸の寮舎と設け又三つれ文庫と建  
佛老二教とより佛漢の群籍と收蔵とす幸すして三万余巻ありすれとてててて  
中島よりて地を賜ひわたりたふ一島と築き一寺と建てててててててててて  
其功の大ぬると感ありて學頭廣隆とて般養心徑と講徒冥解せりわたり又  
願堂二年高野山光臺院一藏庫と置に和浄門至浄感賞ありて勸學坊權大僧都  
法印小住せり

常念佛堂 公白と宗泰生順 命を念仏無窮と祈禱せしむるを重んずるを海鏡宮の御湯袋の地  
宗廟 御當家 御代々の 御靈屋あり常山の院中より

坊舎凡二十五宇 拾遺名不悉今ふ洋あり  
愚の園 古き名不詳て常山の惣名なりハ雲は抄とて奇枕名寄等も武藏の園  
按ふ常山の惣名と上野と号す或人云じり一藤堂度の系宅あり一以幸園仔賀  
の上野は地勢相似とて名とすとてあん是たあるはあり承源二年小田原小桑  
分限帳は島津孫に席とて田原寺大馬助等には知行の中より上野の地を  
北前記よりて古くより唱へある事のあらうとて志願の  
天神とよきしとて一り并りて植たる芽系と焼とてり

十月二日 瓦山堂  
法華八講



四国雜記

契りてさてなれは、其れをのくさよまのひの國の處のまごりえ 堯惠  
まのふれ思とつる取よと松原のありけふふけよ

霜の後あらわれより時雨をい志のひの思れ松もひけ 通奥准后

二王門 明和九年の圓融は無主とありて 東嶽山 大明院宮に辨法親王の筆

冥山堂 座主は親王の師とて法華坊より筆興をふけらるる一山の僧徒は法華八備

柳冥山慈眼大師諱へ天海南光坊と號す奥列會津郡高田郷の人

姓の三浦氏あり 是利法住院義澄の子とも或は蘆名徳隆の末裔ともいひ

母其美と云ふ事と傳す 父母嗣れく月天子は禱り其母奇花を吞とる

因て娠むと云ふ九月とて降誕は初より葷肉と食せず清朗

中して聰敏化は然たり十一歳にして辨法師と投して祝髪一丈

年中始て叡山に登り神藏の實全よすえて台教の深意傳へ

俱舎性相と園珠の尊實よ學ひ復南都に往て法相三論等

の教法以學ひ成重といへる逢て神道の奥儀を究足利の學校

小遊ひて孔老の書と讀道器といへる小肩擗巖を學ぶ後郷に歸り會津

の大寧禪師よあひて教外別傳の旨と發明し善慈和尙小碧巖

集と總一百則の話頭と會得ひ其頃甲斐の信玄台教と教ひ

ある時諸師と請して論義せしめ天海と講主とす衆皆辭理の奇れと

感移れといふ是よりして名を朝野と名らる後常列江戸崎不動院に

住す時小文祿二年夏大に早民られて師として請雨の法を傳

せし其時神女あつて五銚杵と授く師高田浦の深淵に臨むて

法を傳へるは膏雨忽注て百穀大に登る 彼五銚杵今猶ほて 又慶長

四年武朧仙波の喜多院に住す同八年下野國長沼の宗光寺に

移る同十二年

神君 命して叡岳の南光坊に住持せしめ再命して喜多院

に歸り居らしむ同十四年山門に登り法華大會を行はる時よ

座遷師大に両



月毎の晦日ハ西大師の  
所影を次の院に遷座  
かゝりて是を將迎  
奉らんとして白府を道の  
者人々奈しと道場子  
溢る實に此地熱鬧  
の中最も  
首から

上野  
 清水堂  
 みて  
 淺うけ  
 て  
 志りも  
 さりま  
 の  
 梯  
 くれ  
 室井  
 其角



清水堂  
 見の  
 圖



重職の勅許と蒙り新題者の精義嚴重は佐とめめり  
上皇 後陽成院 度々召ありて法要を詔同したるひ奏對詳明かふよ  
依て叡感儀くくは権僧正は擢られ御もくくは侍衣燕尾等を賜ひ  
山科の昆沙門堂の門室に附せらるる之震翰と下したるひ権と轉して正  
小任す同十七年

神君河弒は狩したる折くくは仙波に立寄りたすひて殿堂と後營せ  
や莊園と寄させたす同十八年復命と兼りて日光山に居る  
神君 薨去れ後真遺命と奉して葬を之終山に營と元和三年尊  
靈以日光山に遷坐せし奉る是往古の大職冠の例は倣ふ則山王  
習合の神に鎮たてまつり勅と奉して

東照大権現と號し奉る 大樹 台徳公 亦神君よととせさせたるは  
優寵したるひくくは其先元和二年大僧正に任せられ 先帝 正親町院  
二十五の御遠忌も侍導師に請したるは后後寛永二年

大樹 大樹公 命りと東叡山と稱くくは師とて一尾山とす又上皇の  
二宮と 守證親王 日光山の清い主と請せせのひ師の侍者子に倣は  
たすは其後上野園新田庄世良田山長樂寺を賜ひ

東照大権現の神祠以下の諸堂と造立あり亦同く二十年の秋  
僧正微疾を示す時は 大樹 大樹公 とすひ紀の御曲相 頼宣公 駕と  
屈し疾と向たり僧正遂に遺語五則を書け 大樹畫二探函に命

たすひて其頂相と寫さくくは一日唯識論と説く忽は文殊菩薩の來  
現を覺る則其時至すと云り端座合掌して遷化す時は寛永二十年  
十月二日をり 東國高僧傳は寛永十九年壬午十月二日化寂とあり 紫雲天花の端

あり影堂と當山をくくはひ日光天台の三山に建る當山慈眼山堂其をり  
慶安元年慈眼大師と謚號の詔勅を下したるは 以上兩大師縁起とて東  
慈惠大師 諱ハ良源江の波井郡の人父ハ本津氏母ハ物部氏あり  
延喜十二年壬申九月三日に生る。 父母子ありて觀音と名けりて觀音丸と名けり 十二歳



正月三日  
大黒詣



毎歳正月三日八都下の  
諸人東叡山護國院の  
大黒天さまを此所影入  
りて信習奉り  
世々盛徳著し此日供物  
の盛饗を賜ひたりと  
衆僧の華ふあま俗  
是とめて御福の  
湯と  
り





といふと多年よりありて今老病をうけとくを  
 申も擧げてまうるとも申もひつげらふ  
 赤身世ふあらん後のまよもいふらんと思ふ  
 栄雅

慈眼大師真影 狩野探幽筆

慈眼大師の真影は慈恵大師の影像と共に當山院々須菴にて一箇月ほど執筆  
 した年その十月の御本坊に遷坐あり  
 大悲藏 慈眼大師の告よりて信品は當山に在りて當山より一たぢひと云り  
 今も西大師の龕のまに安坐す諸人若凶禍福とト云ふと指りこと

佛祖 統紀曰 大士 籤 天竺 百籤 越 圓通 百三十 籤  
 以 支 吉 凶 其 應 如 響 相 傳 是 大 士 化 身 所 述 云 云

柳當山の江戸第一の橋花の名勝よりて一山花はあつくと云ふかといふ

台命よりて和列吉野山の地勢と摸し植せらるる故に花は速

あり遅ありて心上山下盛とらるる弥生の花蓋は都鄙の老若貴

とれく賤とれく日毎に神と連てて群遊し花のそわみ尺寸の地を

争ふて帷幕を張延席を設く詩歌管絃の鶯聲も和し錦衣繡裳

花影は映し愛及賞咏日の暮とあらん

慈雲山瑞林寺 上野清水門の外武三丁北の方あり日蓮宗よりて

螢澤

谷中宗林寺の境内  
 あり又瑞林寺の  
 池とも螢と唱ふ  
 すこ此辺雲の光り  
 依り勝れそり

草地紫と

落る

花

哉

芭蕉

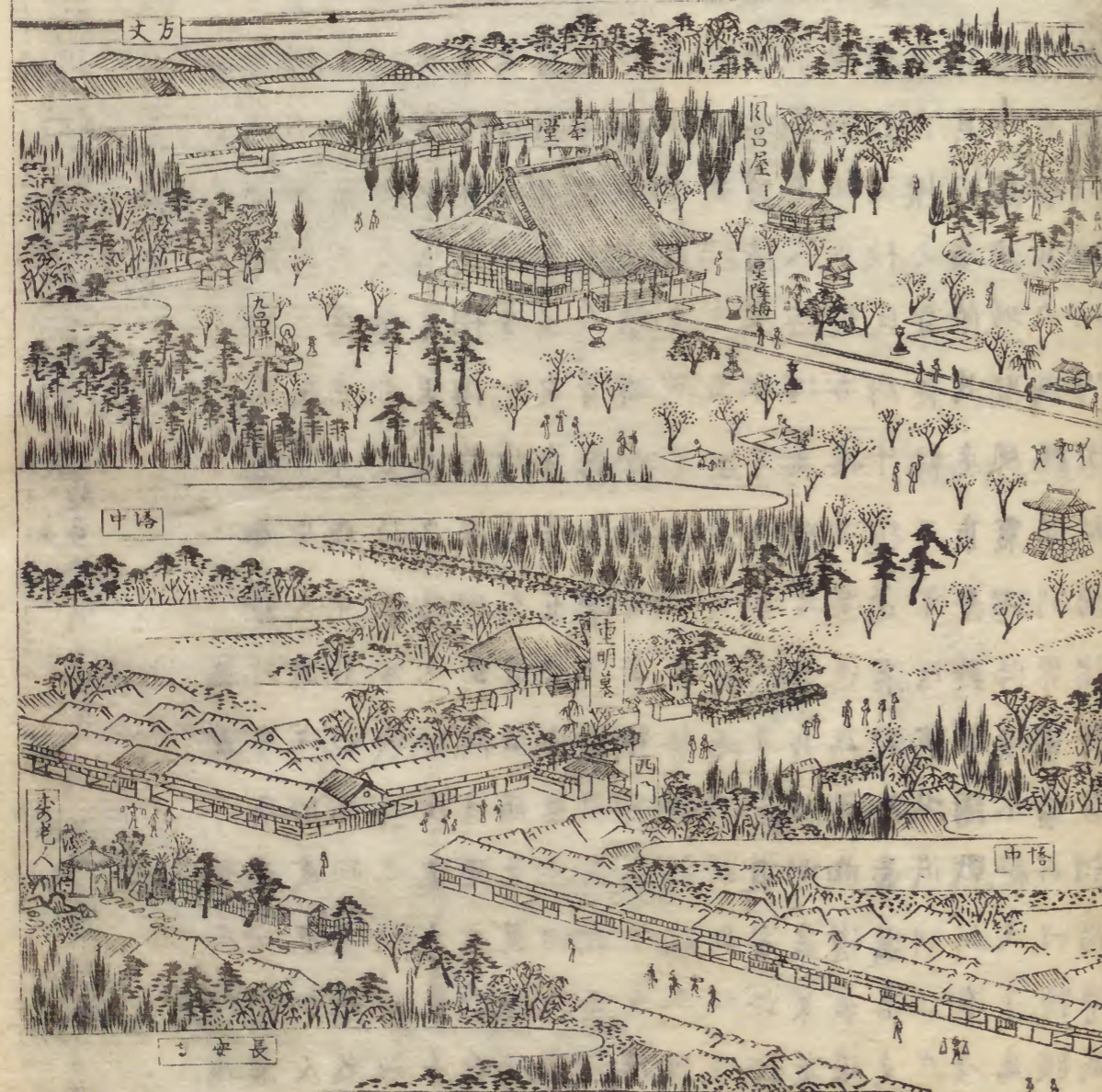




谷中  
感應寺

甲品身延山の觸頭江戸三箇寺の一なり 兎山ハ奉山十七世慈雲院日新上人  
 天正十九年ハ草創なり 奉尊大六の釋迦來ハ延宝五年ハ圓縁日新  
 ろひて今侍首とありと存せり 當寺ハ安永五年ハ日蓮大士の像ハひびく 同不台申  
 長耀山感應寺 上野谷中門の外ニあり 天台宗ニて奉尊ハ傳教大師  
 の作の毘沙門天と安置ハ當寺始ハ日蓮宗ニて宗祖上人と兎山と日長  
 上人中興ありて仲々浦一宗の寺院たり 元禄年中故ありて台宗に  
 改られ爾より後東叡山ニ属ス 其時大明院宮の祈願よりて叡山  
 横川ニあり 傳教大師の作の毘沙門天の像とこみ移し奉尊と  
 せらる 京師鞍馬山の毘沙門堂ハ比叡の乾み當りて佛法守護の道場を  
 れハ當寺モ東叡山の乾ニ當りて 鞍馬寺よりせらるるとり 境内  
 檜枕の二瓦ありて 春時燦燦をり  
 五層塔 當寺中興日長上人建之あり 昭和九年の火災ニ焦土とるなり 仍て  
 寛政の今再建して 後世に  
 長久山奉行寺 岡取小の通ニあり 日蓮宗ニて 兎山ハ日玄上人六永

其一





日暮里  
惣圖  
其二

六年草創の往古ハ古田道灌の建ちたりといへり當寺庭中ニ道灌  
 存候塚と稱するものあり

灌叔勝而之二天扇孫名得其攝丘盡百丘則思矣里道  
 增氏乘鎮材世下谷父持斯祀之與爲有唯太太名道日丘  
 脩之兩之專屬戰收道資丘也所山木餘址田田道灌暮碑  
 德有毛正季管爭恢真官蓋寺在皆黍年耳氏氏無太寺文  
 信者二其兵領諸廓名左不與而用其壘令之郭之惠之行  
 以皆總封機上國有資衛發群道灌號壞矣叔自遺而也疏在  
 懷其諸壇之枚瓜大清門得屏灌之名臺相傳里在寺半東  
 初力城險要氏裂志以大矣攝之曾矣圯傳里在寺半東  
 附也聞其長府各博永夫可遷曾矣圯傳里在寺半東  
 至既風走祿中據涉亨道不於孫寺彷彿太之乃西里都  
 敵而震集二推其經四灌謂斯今舊徨不田思其北人郭  
 國列帽每年道黨史年其奇里懸在河谷忍氏太斥山太寺波  
 諸界降與戊灌送善士號也者河侯去既田侯亦田氏曰道正  
 將寧者鄰寅贍爲兵子源替錄室世里而凶氏臺之址道里道  
 皆肅不國城智齒明道盡灌頼牒中相田其自址道里道灌撰  
 謂百絶戰武豪齒明道盡灌頼牒中相田其自址道里道灌撰  
 彼姓大利列邁道盡灌頼牒中相田其自址道里道灌撰  
 專悅半在江有真策於政太也美氏址過有也灌益人灌撰  
 爲眼爲以戸文道是相十田遷以羣焉其丘故墟二無山矣丘  
 德道上寡焉武灌時列世氏則守屏故墟二無山矣丘







其  
二

道  
権  
山



山  
光  
日



我專為暴是不戰而自服也寬正中道灌入京王一人  
采道灌所詠國風奏御所傳稱其人英武而歌可  
章也以褒揚之迄于今世主僧日忠與懸河大夫古屋  
知長也四宮成煥圖樹石于丘上俾余屬厥事乎曰  
昔灌公之德及武列人無忘其惠丘之思羊叔子不  
然何至聞之里羊叔子亦無忘其惠丘之思羊叔子不  
世也吾聞之里羊叔子亦無忘其惠丘之思羊叔子不  
憇之者所建廟立碑歲初時享祀望其孫資宗始墮淚  
灌公異於此碑國初時享祀望其孫資宗始墮淚  
之必時朝東則春其肅有盛矣方今縣河君大夫  
以歲時若觀當其日禰司徒整戎馬於旗纛士  
發爾踊躍用兵乃皆延頸企踵以侍候之舉燧者  
焉爾於乎君大夫慨然念爾祖聿備厥德將慎  
其四竟完其守備訓有司以義施小民以惠而昭  
令名以碑其丘焉皆曰也夫然知里人丘其址  
焉寺主碑其丘焉皆曰也夫然知里人丘其址  
三十番神堂 教堂のまにあり昔道灌中平川に安置せし靈像よりて死眼八百蓮上人  
同暮里 新暮里代とて暮里とて永保二年北条分限帳に遠山孫九郎江戸知行の中に屋中新暮の  
感應寺裏門のありより道灌山と界とん此迎寺院の庭中奇石と覺て

假山と設け日時草本の苑庭に常々遊觀せし佛小枕中二月の羊よりの酒  
亭茶店の攪儿不せく貴襪被とほきて春の日の永を覺ゆる此里の  
名みいへるりのあらん

七面大明神社 同不延命院とて日蓮宗の寺に安置す冥山同長上人萬治

三年庚子正月十六日夢中冥告を得て後勸請すとて

補陀山養福寺 觀王院と號す同不北の方あり奉尊ハ三尊の弥陀佛冥山の

本食義高上人あり 傳の前の田満寺の条下み

觀音堂 西園は東扶又百番のちんちん 奉尊如意輪觀音 佛工春日の作りて西園札不茅一番

十一面觀音 弘法大師の作りて東札不茅一番 正觀音 慈覺大師の作りて秋父札不茅一番

抑此百觀世音ハ義高上人の建立れり上人初高野山の高臺院に住職  
たりし後彼寺を退去し當休に越さ百番の札取を摸さし事と  
企川是奉土に至りかたに兒女等の結縁の為とあり依て此地あり

小庵のありりる成廟きて寺と

往古古田道灌勸請あり

數千歩の地を

寄附せられしと奉尊おんく

野山より迂り奉る靈像ありとも

百醉又えさかと欲きこれを彼補

一醉毎に佛舍利一顆を御首み

龍竟百醉の尊像をらり

二五門の額に補陀山とあり

隆貞卿の真蹟あり

信及後方の祭神よかれ

諏訪明神社 同取北の方諏訪の臺より

す其後を田道灌此地を江戸味の出張の若とせり

當社の元亨の頃豊島左衛門佐建五

鎮守とみせしとを社頭今も松の本立生茂とて上久たり

あり當社別當の真言宗よりして法輪山淨光寺と号し

高崖に架して眼下み千歩の田園を見やせり

四時の眺をならすと云事あり

して雪見寺とも号しとる也

人麻呂祠 當院庭中小松す

比藏堂 建ありて元徳四年小宛眼供養あり

淨居山青雲禪寺 同所小あり妙心寺流の禪宗よりして

の道場たる昔堀田相刺吏紀正亮候羽列山形在城の頃

光と慕ひ師小就て法を需む候

移すの頃彼地小庵と結ひ師を

より 藤井山淨居寺とある 頽廢の寺院を引て此地小當寺を草創

す

其後融君正順候香花料として北總の佐倉より

境内富士浅間宮秋葉金比羅辨財天護國稻荷等

道灌の勸請ありとあり

船繫松 青雲寺の境内涯小臨

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ

二株ありしが一株は往安永元年の秋大風小吹折て今一本のみ



残まろ此樹蔭より眺望れ荒川の流まら白布を引くこく筑  
 波黒髪ハクシの山ヤマの畫エ小似たり豊島の村落の眼メ小ありて耕ウ畑  
 う川賤セ葉ハすても一イチ至シ小入利根川の遠帆緑樹のうけに見えられ  
 古れく白鷺の花ハナのこく此地の風を画エ中ナカにあるル如ニ如ク一  
或人云く往昔此麓ハ豊島川小橋一入江と道灌の岩塔あり一頃ハ平穀其地まへ運送  
 の舟よりこの松と月堂小せいのまをほくといふもあちち松と一むらの義のあはれ松と松と  
 の松と此の松と月堂小せいのまをほくといふもあちち松と一むらの義のあはれ松と松と  
 道灌山一名を塔山ともいふ南ミナミの新堀を隈サカイに小の平塚小接す往  
 右ミドリ田道灌タミチカ江戸エド塔タ小あり一頃出張の岩塔とせ一跡アトありとも  
 又また道観坊ミチミといへる者の家宅の地ちりとも云い傳つたふ  
ての観坊と跡とを告中感齋寺の寢基あり則すなはち此こ地ち藥草多く採藥の  
 感齋寺と長耀山と稱なづけとも此こ地ちあり  
 葦常小こ小来れと殊こと小秋の頃ハ松虫鈴虫スズメバチ雲クモ浪なみ小ありのて清音  
 をあはす依よて雅客ヤク幽人ウイジンを小来り風心詠エイ一ヒト月ツキ小歌ウタふて其言  
 を愛あいせり

